

公務員版 悪魔の辞典

目次

第1章 役所の常識セレクション

- 1 仕事の基本
- 2 組織
- 3 文書・IT

第2章 自治体政策のキーワード

- 1 計画と行政運営
- 2 行政課題

第3章 地方公務員制度の真実

- 1 人事
- 2 給与・勤務条件

第4章 地方自治の基本ルール

- 1 地方自治制度の基本
- 2 法令・財産等

第5章 財政・会計のリアル

- 1 自治体財政の基本
- 2 予算と決算
- 3 財政運営と会計

第6章 地方議会の実態

- 1 議会の基本
- 2 会議と議員
- 3 議会答弁集

第7章 公務員のホンネ

新人諸君、
これだけは知っておくべし！

自治体の日常と
口伝を集めました！

管理職はコレを知らない
地獄を見るかも？

苦手なあなたも
これならわかる！

000

000

000

000

000

000

000

000

1 イベント

2 格言・教訓・叫び

仕事の基本



わが社

「わがーしゃ」

居酒屋など、公務員以外の人間がいる場合に、公務員が所属する自治体を言うときに使う用語。当初は周囲に気を遣つて用いているが、次第に醉っぱらつて「だから、ウチの市役所はダメなんだよ」と言ってしまい、当初の気遣いがムダになることもしばしば。

今日中 [きょうーじゅう]

①「俺が役所にいる間」、②予算査定や議会（本会議）期間中などの繁忙期には、文字通り深夜零時を指す。

なるはや [なるーはや]

「なるべく早く」の略。ただし、この用語を発する者と聞き手の職員との間で、しばしば誤解を生むことで有名。「いくら『なるはや』で○○議員に連絡しておけ、と言ったからといって……」「だから、いま電話したんです！」（残業中の深夜1時の会話）

朝イチ [あさーいち]

通常は始業时刻を意味し、上司から「この資料、明日の朝イチに頂戴」と言われたら、始業前に机に置いておくのがベスト。遅くともチャイムが鳴っている間に渡す。せつかちな上司の場合、始業时刻から15分以上経過するとだいたい怒られるが、「朝イチと言わされたので」と、日の出とともに上司の自宅で待ち構えても、きっと怒られるはず。

午後イチ [じごーいち]

通常は午後1時を意味し、「この資料、午後イチで持ってきて」と言われた場合、午後の始

地方自治制度の基本



**最少の経費で
最大の効果**

「さいしょの 一けいひで
さいだいの 一こうか」

「コスパのいい仕事しそう
ぜ」という、自治体の責務の
一つ。よく「最小の経費」と
誤記され、昇任試験の論文に
おける減点対象として有名。
各自治体のホームページなど
でも誤りを発見することがあ
る。

地方自治法

〔ちほうーじちほう〕

その範囲の広さから「こんなこと、ウチの自治体には関係ないよ!!」と、必ず昇任選考の受験者にため息をつかせる法律。

地方自治の本旨

〔ちほうーじちのーほんし〕

地方自治の本来の目的・趣旨のことだが、なぜわざわざ「本旨」などという難しい言葉を使うのか、本市職員は悩んでいます。

住民自治

〔じゅうみんーじち〕

「自分たちのまちは、住民自身で決める」ことなのに、いつの間にか住民はその意識を失つてることを自治体職員に痛感させる概念。

団体自治

〔だんたいーじち〕

「自分たちのまちは、国でなく自治体が行政を行う」という自治体の存在意義のこと。住民から、「役所は何の権限があって、そんなこと言うんだ?」と言われて反論する場合のキラーワード。ただし、理解してもらえるかは相手次第。

都道府県 「とどうふけん」

広域自治体。国と市町村の板挟みにあう中途半端な存在。市町村との関係は上下でもなく、支配・被支配でないと言われるものの、都道府県と市町村の合同会議のような場合、都道府県の出席者が課長級、市町村は部長級などの不均衡がよく見られ、市町村側は「本当に上下はないのか？」と疑問を感じることも。ちなみに、都道府県職員は、住民と接する機会が少なく、かえって国家公務員よりも役人気質で融通が利かないと言われることも。

市町村 「しちょうそん」

基礎自治体。住民に最も身近な行政なので、住民からの意見、要望、クレームには敏感な職員が多い。時代ごとに数が減ってきたが、「令和の大合併」は果たして……？

特別区 「とくべつく」

東京にある23区のこと。特別区に勤務する職員が「俺たちは、首都東京の中心で働いているんだ！」という特別な意識を持つているから、特別区という名称になつたってホント？

一部事務組合 「いちぶーじむーくみあい」

単独で行うと非効率になる事務を、他の自治体も巻き込んで一緒に行うために設置された機

関。自治体からの派遣職員が多く、職員のモチベーションがいつも問題になる組織。

広域連合 「こういきーれんごう」

機能としては一部事務組合と同様だが、各自治体の異なる事務を持ち寄って処理できる。連合といつても労働組合や暴走族ではないので、職員が鉢巻きして働いているわけではない。

外郭団体 「がいかくーだんたい」

組織としては自治体の外部にありながら、自治体から出資・補助金等を受けたり、人事交流を行うなど、自治体との関係が強い団体。天下り先や赤字の施設運営などで、住民からの批判の対象になりやすい。また、役所以上に杓子定規な組織であることも……。

住民 「じゅうみん」

ときに協力者、ときにクレーマー、ときに……と自治体職員にとつてはいろいろな意味付けて変化するが、いなくては困る方々。ちなみに、住民には法人も含まれる。

直接請求制度 「ちょくせつーせいきゅうーせいじど」

住民が市長などを直接辞めさせることができるなどの、住民からの直撃爆弾。①条例制定改

選挙管理委員会事務局〔せんきょかんりいんかいじむきょく〕

政局の動向によつて、平穏な日常が一瞬にして打ち破られる可能性がある部署。ある職員が、選挙がないことを見越して結婚・新婚旅行を予定していたところ、急な解散のために結婚そのものが延期になつたなど、悲惨なエピソードには事欠かない。

監査委員事務局〔かんさいいんじむきょく〕

自分でその書類を作成できるかどうかは別にして、他人の書類のミスを見つけるのは得意な人の集まり。これまで議員選出の監査委員が必須だつたが、自治法の改正により任意となつたため、職場のあり方や雰囲気が変わることが期待されている。

議会事務局〔ぎかいじむきょく〕

基本的に議会が閉会中には、平和で静謐な環境となるが、開会中に議員同士の争いや首長部局との対立関係になつたときは、混乱状況になる職場。議員との距離が近づくため、その後の公務員生活にとつては有益なことが多い。

庁舎案内板〔ちょうしゃあんないばん〕

ゆりかご（出生）から墓場（死亡）までに至る様々なことが書かれた、人生の縮図。

総合案内所〔そうごううわーあんないじょ〕

厄介な住民対応を、民間事業者に丸投げするため生み出された画期的な手法。

ワンストップサービス〔one stop service〕

「ここに来れば、すべての用事が済む！」と住民に夢を見せた誇大広告。

代表電話〔だいひょうでんわ〕

ここに電話しても、自治体の代表である首長は電話に出ません。

直通電話〔ちょくつうでんわ〕

住民が狙い撃ちでクレームを言えるようになつた元凶。

内線〔ないせん〕

たまに、通知文で「内戦」と誤記され、争いのもとに。

電話転送・代理応答・不在転送〔でんわてんそう・だいりおうとう・ふざいてんそう〕

管理職が使えない電話テクニックの数々。